

は ち と ぴ



2023年 涼風号
No.54
Take Free
(ご自由にお持ちください)



八王子ピュータワー前にある八日市宿跡標柱

特集 甲州道中 八王子宿

街道歩きのプロが振り返る
八王子の大通り、甲州街道の思い出
甲州街道最大の宿場の今昔
いまでも息づく八王子宿
宿場へ来て見て集めよう！
甲州街道御宿場印プロジェクト

| | | |
|--------------------|--------------------|---------|
| 元気印の市民団体紹介 | 八王子ウォーキング協会 ワンステップ | |
| コラム 八王子の民俗誌② | 二つの要素から成り立ってきた八王子 | 佐藤 広 |
| コラム 八王子自然探訪⑥ | 甲州街道を歩く | 粕谷 和夫 |
| 私の本はこうして生まれた 其の五十四 | 『画家達の仕事とギャラリー2』 | 宇田川靖二 著 |

市内を東西に貫く甲州街道。国道20号という幹線道路であり、険しい山道もあり、多くの歴史的見所もあり……と、多彩な姿を見せてくれる魅力溢れる道路です。市民なら一度は歩いたことがあるこの道の歴史や見所について、ガイドとして何度も案内してきた大高利一郎さんの思い出を辿りながら探ります。

—街道歩きのプロが振り返る

八王子の大通り、甲州街道の思い出



市電の通る大通り



「子どものころは甲州街道のことを『大通り』と呼んでいましたね。大通りには道の両側にお店がずらっと並んでいて、何でも手に入る場所だったんですよ」

大高さんが語るように、八王子市民にとって古くから「甲州街道」は特別な道でした。そもそも江戸時代に五街道の1つとして整備された甲州街道。江戸の日本橋を起点に甲府を経て、中山道と合流する信州の下諏訪まで45の宿場をもつ約53里（210km）

の道で、古くから多くの旅人や文化人が行き交いました。また、物産を運ぶ流通の道としての役割も担っていました。

小さいころ八王子駅前に住んでいた大高さんにとって、大通りの思い出といえば、「市電（路面電車）」だそうです。1932年から38年にかけて、市電は八王子駅〜高尾

駅間の甲州街道を走り、沿線の風景を楽しむことができる市民の足の1つでした（「ちとび」34号参照）。

「イベントの時に広告を兼ねて装飾された花電車に乗せてもらって、高尾まで行って帰ったことがあったんです。

八王子駅からしばらくは八光館（映画館）とか近代的な建物が多かったのですが、追分交差点を過ぎると急に茅葺き屋根が並び、別世界にきたような感じがしましたね」



先生からガイドへ

小さなころからなじみのある道が一変したのが、1945年8月2日未明のこと。八王子空襲によって、市街地はもとより市内の甲州街道も大きな被害を受けました。この

日、移り住んでいた子安町の山の上から市街地の町並みが燃えさかる惨状を、大高さん

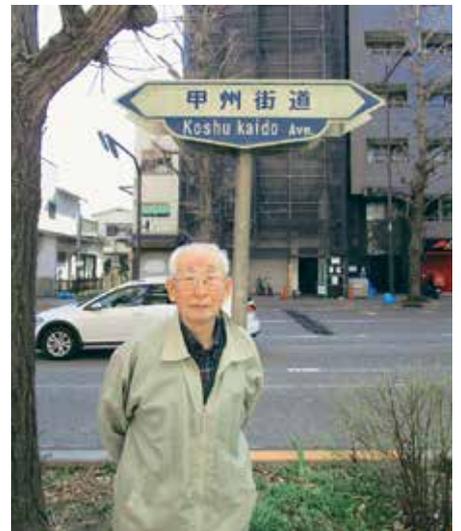
は目撃しました。

焼け跡となった甲州街道は、やがて見違えるように復興し、以前よりも宅地開発が進みます。教師の道を進んだ大高

さんですが、退職の際に修学旅行などでかかわりのあった旅行会社から声をかけられます。

大学生のときは、山岳部に所属するほど山が好きで、教員時代も夏休みにはよく山登りに出かけていたという大高さん。そんな健脚を見込まれて「山歩きガイド」をしながらと白羽の矢を立てられたのです。そしてガイドを始めてしばらくすると、今度は街道歩きツアーをやらなにかと声をかけられます。

大高さんはなじみのある「甲州街道」を推したものの、旅行会社からは人気の高い「日光街道」、そして松尾芭蕉が歩いた「奥の細道」を提案



▲甲州街道の思い出を語る大高利一郎さん

され、それぞれガイドを務めることになりました。

甲州街道の特徴



やがて「甲州街道」のガイドも任せられるようになり、以来20年間、日本橋から下諏訪までを30回以上歩いてきたといえます。もちろん全行程を1回で歩くことは難しいので、区間を区切って少しずつ、毎回バス1台を利用して20〜30人の参加者とともに歩いてきました。

甲州街道を何度も歩いてきた大高さんは、その特徴を3点挙げます。まず小仏峠や笹子峠など、山道が多くあること。だいたい舗装されている現

在でも全行程を歩くにはかなりの健脚である必要があります。

時代の旅の雰囲気味わえます。(本誌P8〜9参照)

八王子の甲州街道

また、皇居の周囲を歩ける街道は甲州街道しかありません。ほかにも都心には歴史的な見所がたくさんあることから、ガイドしながらだとなかなか前に進めないということがあつたそうです。

八王子の甲州街道の特徴について尋ねると、「いまでも昔の名残を留めているのは、2か所ある『鉤の手』くらいでしょうか」と大高さん。

東京を離れると、古い町並みが多く残っているのも特徴です。たとえば山梨県上野原市の野田尻宿や北杜市の台ヶ原宿は、今も往時の雰囲気が残っていて、歩くだけで江戸

現在、市内には新町の辺りと、並木町辺りに鉤の手(敵の侵入を阻むため、まっすぐに進めないよう意図的に道を折り曲げた場所)が残っています。新町の公園には一里

塚(日本橋を起点として1里(約4km)ごとに作られた道しるべ)の跡が碑として残っています。

「八王子には、直接街道や宿場を示すものはありませんが、やはり本陣跡や問屋場跡を説明する標識とか、もう少し江戸時代の甲州街道の面影を伝えるようなものを設置してほしいですね」

こう語る大高さんは、江戸時代の街道の様子を表わした絵図や説明が街道沿いに掲示されていて、当時の様子が分かりやすく示されている台ヶ原宿などの例を挙げ、市内でも実際に街道を歩きながら学ぶことのできる標示ができません。

また、八王子には、甲州街道について分かっていない点が多いとも指摘します。たとえば八王子宿の下地区の本陣はいまだに分からず、竹の鼻以外の一里塚の位置も特定されていません。

大高さんは自身の記憶を辿って、かつて横山事務所の辺りにあった金網の中や、小仏の地元の人に教えてもらっ

た、土が盛り上がった場所などから、一里塚の場所を推定しています。

ガイドブックの作成

ガイドをする前に大高さんは、江戸幕府が当時の五街道の実態を把握するために作成した「甲州道中分間延絵図」を読み込み、その解説を元に現在の地図と照らし合わせる作業をしていました。

それを元に資料を作成し、実際に歩いたり、写真を撮ったりして、ガイドに挑んでいたのです。

こうした資料や経験を元に、2009年に出版したのが『街道を歩く 甲州街道』です。増補改訂版を経て、このたび約10年ぶりに内容を一新した新版を刊行しました。10年の間に大きく様変わりした街道沿いの風景の変化や読者からの指摘なども反映して、「いま」の甲州街道を

紹介しています。

「このガイドブックを手にはぜひ甲州街道を歩いていただきたい」と語る大高さん。現在は街道歩きを引退されていますが、それでも甲州街道の謎を解くための調査を続けています。何十回と歩いた大高さんだからこそ作り得たガイドブックをお供に、あなたも甲州街道を体感してみませんか。



◀新町の竹の鼻一里塚跡の碑



▶並木町の八王子宿西端の碑

大高利一郎著
新版 街道を歩く
甲州街道
定価1800円+税 揺籃社刊
A5判、160ページ+口絵4ページ

お近くの書店にて
好評販売中!

江戸時代に整備された甲州街道の中で、最も大きな宿場の一つであった八王子宿。現在、市内でその面影を残す場所はあまり残っていないのですが、八王子宿を活用した新たな取り組みが各所で展開されています。甲州街道の宿場町はどのような場所だったのでしょうか？ その姿を新旧織り交ぜて、多面的に紹介します。

— 甲州街道最大の宿場の今昔

いまも息づく 八王子宿



八王子宿の成り立ち

1590（天正18）年、八王子城落城後、江戸幕府の代官頭大久保長安は、城下にあった横山・八日市・八幡の3宿を横山の地に移して、新しい八王子宿を建設しました。これが現在の中心市街地の基盤となり、甲州街道沿いの八王子宿の原型となっています。

八王子宿では定期的に市が立てられ、市にやって来る商人らの宿泊や商う荷物の保管などをしていました。横山宿は4のつく日、八日市宿は8

のつく日、合わせて毎月6回の市（六斎市）が開かれ、食料や織物・生糸、薪などの燃料を販売。中でもこの市で多数取り扱われていた、周辺の村々で生産された織物のことを「八王子織物」と呼ぶようになりました。

一方、八王子宿は八王子十代官や千人同心に人馬を提供し、軍事的な役割を担っていました。宿のなかでも小仏峠に近接する場所に千人同心の屋敷を置いて軍事上の拠点とし、甲州街道の東西の入口、新町と千人町の西端には鉤の手を設けて、敵からの侵入を防いでいました。

八王子宿はいま その一

「まちなか休憩所 八王子宿」と「桑都テラス」

2020年、中町の一角に「まち・なか」が誕生しました。1階は休憩スペース、赤ちゃん・ふらっと、トイレ、物販スペースなどのある「まちなか休憩所 八王子宿」。2階には展示会やセミナー、会議などに利用できるシェア空間「まち・なかギャラリーホール」が設置されています。2022年には、八王子の魅力を発信する飲食・物販店舗や演芸場、にぎわい広場などを備えた「桑都テラス」が近接して開設され、新たな交流の拠点となっています（本誌P16参照）。

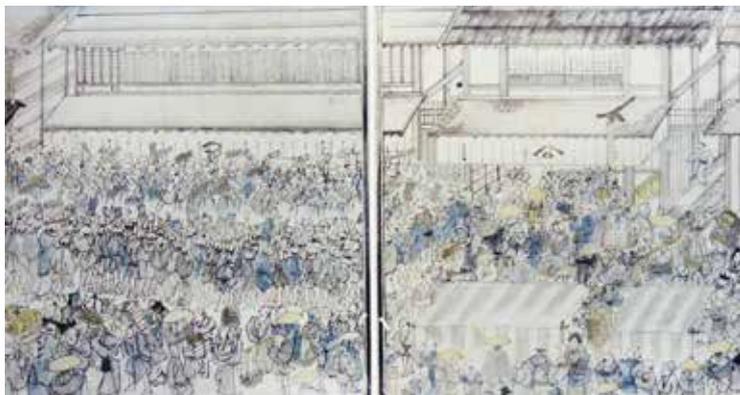


▶まちなか休憩所 八王子宿



◀桑都テラス

▶桑都朝市（『桑都日記』、極楽寺所蔵）





江戸時代の八王子宿

甲州街道の整備が一段落すると、宿が増え、宿駅としての機能も加わっていきます。

江戸時代後期の「甲州道中宿村大概帳」によると、横山宿（八王子宿）の規模は次のように記されています。

本陣（大名などが宿泊した公認の宿舎）2軒

脇本陣（大名の従者が多く、本陣が対応できなくなつたと、予備にあてる宿舎）4軒

旅籠（一般の旅人が利用した宿舎）34軒

問屋場（人馬の継立などを行うところ）2軒

総家数1548軒

人口6026人（男3112人 女2914人）

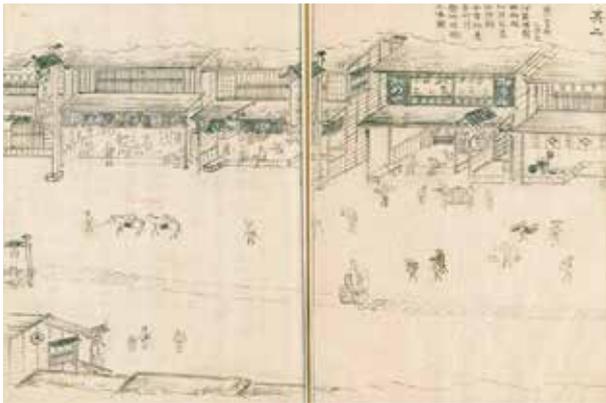
また、東は子安村と元横山村の入会地の境から、西は散田村の境まで家並みが続ぎ、その長さは35町4間（約3890m）と記されています。

宿場の内部は、横山宿・八日市宿・八幡宿・八木宿・新町・久保宿・嶋坊宿・本郷

宿・横町・子安宿・本宿・寺町・馬乗宿・小門宿・上野原宿の15の個別宿（町）の共同体に分かれ、その中心的役割を担っていたのが横山宿と八日市宿です。15の宿には、それぞれ個々に名主や年寄などの役人も置かれていて、自立した共同体でもありました。

現在地に照らし合わせると、横山町郵便局の辺りに横山宿、ビュータワー八王子前の「八日市宿跡」標柱辺りに八日市宿の本陣・脇本陣・問屋場があり、八日町交差点辺りが高札場（法度などを板札に記し、人目をひく所に高く掲げた施設）のあつた場所にあたります。

開通当初は軍用道路としての意味合いが強かつた甲州街道は、絹織物を中心とした商品経済が発展してくると、庶民の旅や商品の運送に使われるようになりました。富士山・身延山に詣でる人びとや手紙を配達する飛脚など、多くの人びとが行き交うようになり、地域経済の中心地として「八王子宿」は発展していったのです。



▲▲八日市宿（『八王子名勝志』、国立国会図書館蔵）

八王子宿はいま その二

「八王子十五宿めぐり絵図」と「大久保長安スタンプラリー」

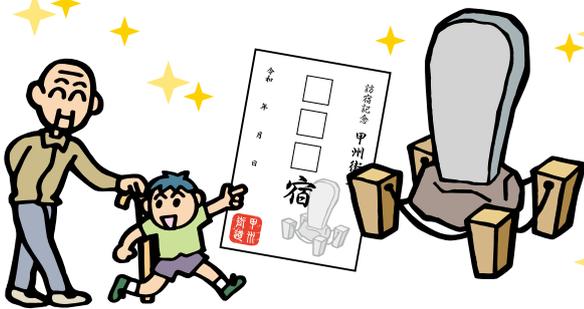
2023年4月21日〜23日にかけて、大久保長安の会が主催して八王子十五宿をめぐるスタンプラリーを開催しました。八王子の町づくりの基礎を築いた大久保長安を偲ぶ「長安祭」に合わせ、市内15宿に位置する寺社や店舗など10か所でスタンプコーナーを設置。スタンプ数に応じて大久保長安グッズ（オリジナル缶バッジとシール、絵本『長安さまのまちづくり』）がもらえるなど、楽しみながら大久保長安や八王子十五宿を学べる機会となりました。



▲▲八王子十五宿めぐり絵図

宿場へ来て見て集めよう!

甲州街道 御宿場印プロジェクト



日本橋から下諏訪までをつなぐ甲州街道に、この春「御宿場印」が誕生しました。聞きなじみのない御宿場印とは一体何なのか。どうすれば手に入るのか。街道歩きの新定番としてコレクションのできる甲州街道御宿場印の魅力を深く掘り下げます。

一 御宿場印とは？

「御宿場印」とは、寺社などの「御朱印」、お城の「御城印」と同じように、街道沿いの宿場を訪れた記念となる訪宿証にあたります。ハガキサイズの用紙に、宿場名と記念の角印が印刷され、その地域に関連した絵柄が描かれた記念品です。文字や絵柄は多種多彩で、その土地だからこそその魅力あふれた1枚になっています。

もともと2021年7月に日光街道の宿場の1つ、千住宿を地盤にもつ足立成和信用金庫が立ち上げた一大プロジェクト「日光街道、日光西街道御宿場印」がルーツで、街道沿線にある信用金庫（鹿沼相互信用金庫、足利小川信用金庫、結城信用金庫）を主体として、沿線の観光協会、商工会議所、自治体、鉄道会社などの協力によって生み出されました。昨年には東海道も部分的にスタートし、現在は京都の三條大橋までの間の53の宿場をつないでいます。

御宿場印は、歴史的観光資源である「宿場」を活用することで街おこしを狙い、購入のため実際に多くの観光客に足を運んでいただくことを目指しています。プロジェクトがスタートしたのは、コロナ禍の中で旅行もままな

らない時期でしたが、密になることなく、来街動機と消費行動を同時に創出できることも追い風となり、大きな反響を呼びました。

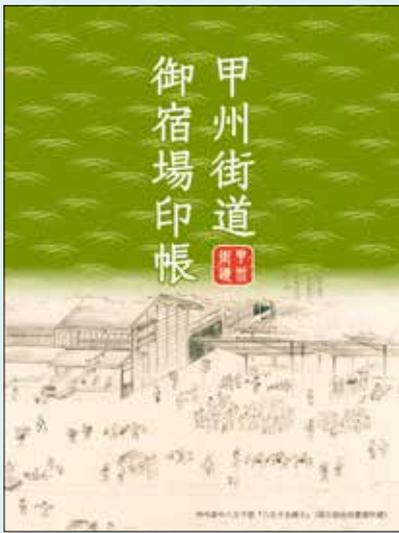
二 甲州街道の御宿場印

そしてこの春、八王子観光コンベンション協会の企画協力で、満を持して清水工房主催の「甲州街道御宿場印」がスタートしました。

甲州街道は江戸五街道の中でも街道そのものの距離が短く、交通量の往来が少ない道でした。もともと軍用路として整備されたこともあり、八王子宿をはじめとした宿場町の出入り口には直進させないための「鉤の手」が設置されているところもあります（P3参照）。やがて天下泰平の時代になると旅人や文化人が行き交い、甲州や信州から江戸へ農産物を運ぶ流通の道としての役割も担うようになりました。

甲州街道は起点の日本橋から下諏訪宿までの間に45宿（32次）ありましたが、この沿線の宿場に1枚ずつ「御宿場印」が作成されています。

ところで甲州街道には宿場の数（45）とは別に「32次」が設置されています。これは一部に近隣の村同士が協力して運営していた「合宿」という宿場形態によって生じたものです。



御宿場印を納める 御宿場印帳

1冊3,000円(税込)

甲州街道
全宿場印を
収納できる1冊

じゃばら状の冊子形式

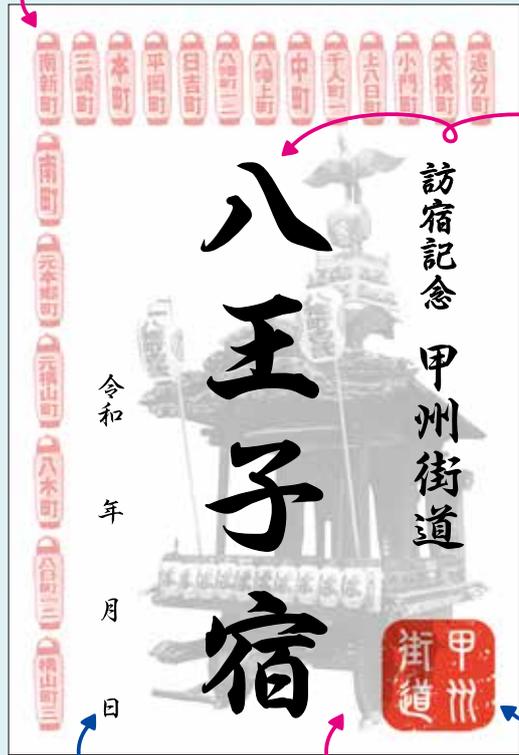


宿場名が書かれた場所に
収納可能!

甲州街道 全宿場にある 御宿場印

ハガキサイズ

1枚300円(税込)



甲州街道の宿場名
甲州街道の角印
(合宿は1枚)

購入した日は
自分で記入

その土地ならではの
絵柄を楽しめる♪

たとえば市内では駒木野宿と小仏宿が合宿にあたり、この2宿では1か月のうち、1日から15日を小仏宿、16日から晦日まで駒木野宿が宿場業務を担っていました。甲州街道は主に山間部を通るため、宿の規模も小さく、宿場の役割を2〜5宿で割り振っていたところがあつたのです。今回の御宿場印では、これらの合宿をひとまとめにして全部で32宿とし、ここに日本橋と下諏訪宿を加えた34の御宿場印を作成し、現地で販売しています。

御宿場印が買える場所

御宿場印は、歴史ある甲州街道沿線の街道歩きに興味をもつ方々はもちろん、単にウォーキングが好きな方も気軽に収集できます。また、全宿場踏破にこだわらず、特定の地域、好きな絵柄を集めてみるのも楽しいでしょう。

市内では2枚の御宿場印があり、「八王子宿」は中町の「まちなか休憩所 八王子宿」、「駒木野宿・小仏宿」は「高尾山口観光案内所(むささびハウス)」で購入できます。また、追分町の揺籃社(清水工房)ではこの2枚どちらも購入することができます。

御宿場印は、その土地に行つて楽しんでもらうことに主眼を置いていますが、たとえば全く異なる土地の御宿

場印を購入することはできません。その土地の御宿場印を入手するためには、あくまで実際にその土地を訪れる必要があります(日本橋から下諏訪宿までの購入場所については左記QRコード参照)。

御宿場印を集めるツールとして、「御宿場印帳」も用意しています。これはじゃばら状に全宿場の名前が記入され、そこに各地御宿場印を挿入できるというアイテムです。こちらも各販売所で販売していますので、記念の印をコンプリートして大切に保存したい方には、必携の1冊です。

甲州街道御宿場印プロジェクトでは、今後さまざまなイベントや期間限定御宿場印なども続々展開する予定です。御宿場印を通して、八王子、そして甲州街道の魅力を探ってみませんか。

甲州街道御宿場印の詳しい
最新情報は**こちらから**



<https://www.simizukobo.com/goshukuba>